

会議議事摘録

会議名	平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 29 年 11 月 19 日 (日曜日) 14 : 00 ~ 16 : 00 (2.0h)
場所	本校 6 階 604 教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員 : 伊藤雄子 (保護者)、佐藤文雄 (高等学校関係者)、野間 弘 (卒業生)、藤井昌弘 (医療事務関連業界関係者)、保坂正春 (記録事業業界関係者)、宮武正秀 (福祉関連業界関係者) (計 6 名)</p> <p>②学校 : 橋本正樹 (校長)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長・学科長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、吉川 香 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長) 黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一 (診療情報管理専攻科長・医師事務技術専攻科長)、中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長) (計 12 名)</p> <p>③事務局 : 川内靖美、高橋 稔 (計 2 名) (参加者合計 20 名)</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>①事前送付 : □資料 1 : 平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 2 : 平成 28 年度学校関係者評価報告に示された意見・課題への取組の進め方の中間点検、□資料 3 : 平成 29 年度重点目標の中間点検、□資料 4 : 平成 29 年度学校関係者評価報告書検討資料</p> <p>②当日配付 : □資料 5 : 平成 29 年度学校関係者評価報告書様式、□資料 6 : 平成 29 年度第 1 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A : 平成 29 年度進路決定状況、別添 B : 平成 29 年度前期授業アンケート集計結果、授業アンケート速報シート、別添 C : 平成 29 年度学校生活に関する調査・挨拶に関するアンケート用紙、別添 D : 平成 29 年度教員研修計画・実績、別添 E : 平成 29 年度入学生の基礎学力調査報告、別添 F : A0 入試入学予定者への入学前指導プログラム (スクーリング)、別添 G : 平成 29 年度学生募集状況)</p> <p>③当日配付印刷物 : □校友会報 No. 48</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>橋本校長より、今年度は高等教育に関して、二つの大きな動きがあった。一つは、平成 31 年度に開学が予定されている専門職大学、専門職短大をめぐる動きであり、ここでは、教育の質的評価が大きなテーマになっている。もう一つは、介護福祉士について法改正があり、外国人留学生の在留資格が認められた。今はベトナムを中心に日本への留学の太い流れが起きている。その中で本校としては、日本語学校や施設と連携して着実によい人材を育てることにより、評判が高まることを目指していきたい。学校関係者評価委員会の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見をいただきたい。よろしく申し上げます。との挨拶が行われた。</p>

2. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料1）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

3. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋）

平成29年度第1回委員会以降の主な経過について、各担当より資料6に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組状況報告について

事務局より資料2の構成及び中間点検の記述経過について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成29年度重点目標の中間点検報告について

橋本校長より、資料3に基づき、今年度の3つの重点目標（①TPCの育成と強化、②退学防止、③教員研修）について中間点検報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成29年度学校関係者評価報告案について

保坂委員長より、前回委員会において質疑をいただいた、平成28年度活動の自己評価報告に対する本委員会の意見を、平成29年度学校関係者評価報告書検討資料（資料4）としてまとめたので、重点目標、各評価項目の順に質疑をお願いするとの説明があり、資料4の構成について事務局より説明の後、評価項目毎に審議を行った。

審議の結果、報告文書の最終的な整理とまとめは保坂委員長に一任して、平成29年度学校関係者評価報告が確認、了承された。詳細は、別紙のとおり。

なお、各委員の総評について委員長の氏名順に発言をお願いした。詳細は、別紙のとおり。

7. 次回日程、その他

事務局より、各委員の日程確認が行われた結果、第3回委員会は3月17日（土）14:00～16:00に開催を仮決定とした。次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成28年度学校関係者評価報告に示された課題への取り組み年度末報告
- ・平成29年度重点目標の年度末点検報告

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 29 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

3. 経過報告

○平成 29 年度第 1 回委員会以降の経過について宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋より資料 6（別添 A～G）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 29 年度も重点目標として年間の退学率 3.5%以下を設定して退学防止に取り組んでいる
- ・10 月末時点での退学者は 11 名、退学率は 1.5%
- ・個人情報削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して役立てている。
- ・科目毎の欠席届を担当に提出することで欠席情報を把握している。
- ・学生委員会を中心に対策を進めている。

前期：夏休み前と後に 1 年生担任に対して退学の意向申出者への対応経過について調査し、夏休み明けの担任からの連絡、学生委員からの Gmail による保健室・学生相談コーナー利用促進などの対策を進めた

後期：前期と同様の調査を段階的に実施して対策を進める、調査結果を学科にフィードバックして学科での対策にも生かしてもらう予定

- ・A0 入試による入学予定者に対する入学前指導プログラムの見直しを行っている。（別添 E）

(2) 就職活動の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる（別添 A）
- ・10 月末時点での内定状況

2. アンケート関連

(1) 平成29年度の実施状況

	授業アンケート		学校生活に関する調査
期間	前期：6/26(月)～30(金)	後期：12/4(月)～8(金)	12/4(月)～15(木)
対象	・全学科		
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度前期・後期授業アンケート実施計画、実施手順 ・配付・回収を担当教員からクラス委員に変更 ・単純平均値と自由記述の翌週速報（別添 B） ・集計結果のまとめ：前期（別添 B） ・結果へのコメント記述（前期は自己点検委員会内トリアル、後期より常勤教員に実施） 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度学校生活に関する調査実施計画、実施手順 ・12/4 以前のインターシップ[®]専攻生は個別実施
質問	・平成 29 年度改訂版		・平成 29 年度改訂版（別添 C）
実施科目	<ul style="list-style-type: none"> ・前期科目及び通年科目 ・322 科目 7,429 回答 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期科目及び通年科目 ・科目番号を確認中 	・挨拶に関するアンケートを合わせて実施
報告	・8/29～科目担当者に手渡し	・平成 30 年 3 月～科目担	・平成 30 年 4 月学科教員会

		当者に手渡し、郵送	
公表	・内部：平成 29 年 10 月～ ・外部：平成 30 年 5 月～	・内部：平成 30 年 5 月～	

3. 教務委員会関連

(1) 平成 29 年度実施計画・実績（別添 D）

- ・職業実践専門課程の認定要件に基づく研修及び教務委員会主催の外部講師招聘研修
- ・専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施するもの
- ・授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施するもの

(2) 平成 29 年度入学生の基礎学力調査結果（別添 E）

(3) A0 入試入学予定者への入学前指導プログラム（スクーリング）（別添 F）

4. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況（別添 G）

	看護科を除く学科	看護科
既実施	10/14(土)、11/11(土) 特待生、推薦、ワグ奨学生、A0、外国人、一般	10/29(日) 指定校・公募推薦
今後の日程	11/25(土)、12/16(土)、1/20(土)、2/10(土)、 3/3(土) 3/24(土)	社会人・キャリア 11/25(土) 一般Ⅰ期:1次 11/25(土)、2次 12/9(土) 一般Ⅱ期:1次 2/4(日)、2次 2/10(土)

5. 職業実践専門課程関連

(1) 教育課程編成委員会の開催

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
認定課程	医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科)	介護福祉科
第 1 回	7/20 (木) 10:00～12:00	7/19 (水) 13:00～15:00
テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度の重点目標について ・平成 29 年度の教育活動と学科運営について ・平成 29 年度の教員研修計画について ・平成 30 年度カリキュラム編成について（医療事務分野） 	
今後の予定	・次回委員会は 2～3 月を予定、日程調整中	

(2) 情報公開に関する告示改正

- ・文部科学省告示改正があり、既認定学科に以下の対応が求められた
 - ①公表資料である別紙様式 4 の改訂
 - ②毎年 7 月末を基準に別紙様式 4（最新版）による情報の更新
 - ③3 年毎のフォローアップ（別紙様式 4 の所轄先への提出）

6. 平成 29 年度活動の自己点検・自己評価関連

(1) 活動の予定

日程	実施内容

2月下旬～ 3月中	<ul style="list-style-type: none"> ・2月点検委員会から活動開始 ①平成28年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の年度末点検（各担当） ②平成29年度重点目標の年度末点検（校長） ③部署、担当毎に該当する点検項目について29年度活動の自己点検・自己評価 ・使用基準：私立専門学校等評価研究機構「専門学校等評価基準書 ver4.0」
3月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第3回学校関係者評価委員会へ①と②の点検結果報告 ・3月点検委員会で③の全体まとめ、自己評価報告書の作成、参考資料確認
4月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・4月点検委員会で④平成29年度活動の自己評価報告書（点検大項目）まとめ ⑤平成29年度学校関係者評価報告書からの意見・課題の進め方確認
5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> ・5月点検委員会で⑥平成30年度重点目標の確認
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度第1回学校関係者評価委員会へ④の報告、⑤⑥の説明

7. その他

(1) 平成29年度学園祭

- ・準備日 11/30（木） ・開催日 12/1（金）前夜祭、12/2（土）一般公開

○退学の状況については、事務局高橋より以下の補足が行われた

- ・今年度も3.5%以下を目標に掲げて努力している。10月末時点の退学者は11名、在籍者に対する退学率は全体で1.5%となり、順調に推移をしている。
- ・今年度の活動としては、学籍異動の記録と退学防止事例記録を学内ネットに載せて、情報を共有しているほか、科目ごとの欠席の状況を担任が把握するようにしている。
- ・Gmailにより保健室学生相談コーナーの利用促進を呼びかけている。
- ・退学予防に役立てるべく、A0入試の入学予定者に対する入学前の教育プログラムの見直しをしている。

○就職活動の状況については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。

- ・最終的に内定97%以上、正職員としての内定97%以上という目標を立てて取り組んでいる。
- ・求人数は全体で前年比84.4%という状況だが、福祉系が前年比63%となっている。今年の介護福祉科卒業生が10名のため、例年出しているDMを出さなかったのが要因である。医療事務系については前年比108%、しっかりと確保をしている。
- ・進路決定状況は、内定率が10月末時点で68%となり、前年同時期の52%を上回る状況で推移している。最終目標である97%の達成は十分に見込める状況にある。

○授業アンケートについては、事務局高橋より以下の補足が行われた。

- ・前期の授業アンケートは6月26日から31日に実施した。後期は12月4日から8日にかけて実施をする予定である。学校生活に関する調査は、12月4日から15日までの期間で実施する。
- ・今年度はアンケート用紙の改訂のほか、実施方法を一部変更し、単純平均値（レーダーチャート付き）と自由記述については翌週までに各先生に報告する形にした。
- ・学校生活に関する調査も若干の改訂を行った。いずれも来年の連休明けには学生と兼任の先生にもデータを公表する形で集計を進めている。

○教務委員会については、三宅教務委員長より以下の補足が行われた。

- ・平成29年度の教員研修計画と実績については、半期分を集計して昨年度比1.5倍と増加している。2年前と比較すると2.7倍と大幅に増えているが、教職員の皆様の意識が変わってきたものと捉えている。

- ・共通基礎学力テスト分析については、平均点の推移に大きな変化はない。鍼灸医療科で企業推薦の方が貢献して 10 点以上上がった影響で全体の平均値が若干上がっているが、ほかの大多数の学生の学力が上がったとは捉えていない。
 - ・基礎学力テストと前期の成績についての相関を見たが、あまり強い相関はない。教科による差も大きいので、どちらかという入学してからの努力による部分が多いものと考えられる。
 - ・医療秘書科と医療マネジメント科を比較すると、前は医療秘書科が学力の低いほうから高いほうまで広範囲に分布しており、指導の難しさがうかがわれたが、今年度はほとんど差がなく、2つの学科の特徴がなくなっている。
 - ・看護科は、高い値ではあるが、若干下がっているのが気になる場所である。
 - ・入試区分別の平均点を出してみたが、全体の平均が 68.7 のところ、A0 入試は 65.8 と 3 点ぐらい下がっている。さらに、指定校の入学生が 1 点ぐらい下がっているのが気になる場所である。
 - ・入試区分別の平均点を前年度との差で見ると、A0 と一般入試との差が縮まってきている。指定校は横ばいである。
 - ・全体に対しての退学者の平均値を求めたところ、A0 入学生は全体の平均が 63.1 のところ、退学者だけの平均が 58.1 と下がっている。指定校も全体が 66.4 に対して退学者の平均が 52.3、一般入試も全体の平均が 71.6 のところ、退学者の平均が 52 となっている。以上のことから、入学したときに十分な学力がなく、ついてこれられなくなることが退学の要因の一つになっていることが考えられる。
 - ・A0 入試の入学生への入学前プログラムの概要が決定した。友だちづくりと学びのモチベーションを高めることを目的に、3 月 12 日に実施を予定している。対象の人数は 32 名から最大で 43 名ぐらいと予想している。前回の意見を踏まえて、スクーリングⅠを全体で行い、スクーリングⅡを専門分野への導入を目的として学科ごとに行う内容に変えている。
 - ・スクーリングⅠは、校長の挨拶、各学科、事務局の紹介を在校生を中心に行い、その後アイスブレイクを行いながらグループづくりをして懇談にはいる。懇談は若手の教職員を中心に在校生を含めて行い、このときに無理のない範囲で入学生同士が LINE の交換などをしていただければよいと思っている。その後グループワークとして、遊びの要素を入れた SOKKI 探検スタンプラリーを行う予定である。
 - ・スクーリングⅡは、何らかの授業体験及びレポート作成を実施し、入学前プログラムの修了証を授与して終了となる。初めての企画なので、リハーサルなど準備を周到に行い成功させたいと思っている。
- 学生募集については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。
- ・11 月 15 日現在で、看護科を除く学科の合計が 88.1%、学科別では前年と比べて医療秘書科がやや苦戦をし、介護福祉科、くすり・調剤事務科は厳しい状況になっている。
 - ・出願者数は一昨年とほぼ同様の状況で推移している。一昨年は最終的に 299 名の出願があったので、およそ 300 名という数字が見えてくるが、それを超える数値になるよう努力しているところである。
 - ・看護科については、推薦入試が前年より厳しかったが、社会人キャリア、一般入試では前年を少し下回る程度の状況と見ている。推薦入試に関しては、前年が 3 倍近い倍率だったため敬遠されたのではないと思われる。
- 以上の説明について委員からの質問、意見はなかった。

4. 平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組状況報告について

- 事務局高橋より資料 2 の構成及び表中の※ 3 中間点検の記述経過について説明が行われた。

- 保坂委員長より、資料2は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われ、中間点検記述について順番に質疑を行った。
- 中間点検記述について委員からの質問、意見はなかった。

5. 平成29年度重点目標の中間点検報告について

○橋本校長より資料3に基づき以下の説明が行われた。

①TPCの育成強化

- ・今年度の学校運営方針の中で、重点目標の一つとして、学生が学ぶことの楽しさを実感し、自主的に学びを深めるきっかけとなる授業を第一に挙げた。
- ・暗記だけではなく、本質を理解して問題意識を持ち続けながら、社会に出てからも変化に対応した学びを続けられるような人材を育成することを意識して取り組んでいる。
- ・授業以外でも、例えば学園祭などの学校行事も学生が自主的に、自分たちで考えながら進めていくような形にもっていききたい。

②退学防止

- ・引き続き年間退学率3.5%以下を目標とした。今年度は、昨年退学が目立った医療秘書科のA0入試による入学者への対策を重点的に取り組み、現時点での退学は防止されている。次年度は他学科にも広めていきたい。来年度のA0入試入学生に向けては、入学前スクーリングを行う。
- ・専門学校は学び直しの場だと思っている。社会人の学び直しだけではなく、普通科で学んできた高校生にとっては、これまでのアカデミックラインからプロフェッショナルラインへシフトするという意味合いもある。
- ・学びの内容も変わってくるので、ここで自分をリセットするという視点も入れて、学校としてサポートをしていきたい。
- ・実際の退学者数は、前期末で11名、1.46%となり、昨年より若干減っている。今年は潜在的な退学予備軍についても学科で抱え込まずに、一緒に指導する方向で進めている。

③教育研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

- ・授業公開が今年も拡大して実施された。常勤教員は期間中の授業は原則すべて公開とし、兼任教員の方からも5名の方に参加していただいた。お互いに公開しあって学び合うというスタンスをこれからも進めていきたい。
- ・研修会等への自主的な参加については、新たに外部研修の受講補助費の予算を確保し、自主的な学びを教職員に促している。
- ・12月発行予定の教育研究誌は、全常勤教職員に投稿をお願いしている。問題意識を共有しながら、よりよい学校をつくっていくためにも引き続き実施していきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

②退学防止：A0入学予定者への入学前プログラム

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□退学防止に関して、平成29年4月の医療秘書科のA0入試による入学生は何名か。	□19名いる。医療秘書科だけでなく学校全体としてA0での入学者は年々少しずつ減っている。そのために退学者が現れないのか定かではないが、取り組みが機能しているという理解もしている。

<p>□スクーリングを実施することは募集要項に掲載するのか。もともと学力や動機が低いA0入学者に対して、課題を課すことを募集要項に載せることで、逆に入学を回避してしまうおそれはないか。</p>	<p>□A0については入学させるための便法になっているという指摘もあり、課題を出すなどの指導を徹底しようという動きがある。本校もスタンスとしては積極的にやってみようということである。（橋本校長）</p> <p>□募集要項は入学許可を得るまでのことを記載するもの、今回のスクーリングを含めたものは入学許可を得た人に対して行うものなので、そこは区分したほうがよい。個人的には、入学許可を得るためにはこのハードルがあるという表記はする必要はないと感じている。</p>
<p>□学校経営上、人数は必要ではないか。</p>	<p>□人数がいてもやめてしまったら、学校の評判をおとしめることになる。5月1日現在の入学者数を確保するためだけのものではなく、それを継続して、卒業後もきちっと職業人として評価されるような成果を示していく。そのために委員会でも努力をしているので、手間がかかってもやらざるを得ないというのが我々の共通認識である。</p>
<p>□中途退学防止のために新たにスクーリングを企画したのは、大変よい企画だと思っている。中途退学者は、孤立してやめていくケースが結構あると思うので、グループワークなどを重視して友だちや横のネットワークをつくることはよい。</p>	<p>□やること自体はプラスになると思うので、高校生に大変だと受け止められないように、あまりハードルが高く感じられない、むしろ入学したら役に立つ、これがあるおかげで安心できるというイメージを持ってもらえるような表記を工夫していきたい。</p> <p>□A0入学者には、学力がやや低い、欠席や遅刻の頻度が多い、クラスメイトとのかかわり方が上手ではないといった傾向がある。学業については、アカデミックではない学びの場という認識をもってもらうとともに、登校のしやすさを感じてほしい。また、入学前に一度接点を用意することで、入学後に誰ともかかわらないで教室内で孤立することのないようなきっかけづくりになる。A0入学者が過ごしやすい環境を自分で作れるような手助けになればということと理解している。</p>
<p>□学力が低いという点は、これだけ優秀な先生方がそろっている学校なので、入学してもらえればいくらかでも引き上げることはできると思うが、社会に出たら人とのコミュニケーションが一番だと思う。この入学前のプログラムは、友だちをつくらうというレベルの話で、試験をすとか、そういうものではない。普通にコミュニケーションが</p>	<p>□A0入学者の入学前指導プログラムは今年度初めての試みなので、この結果を踏まえて順次修正しながら進めていきたい。スクーリングⅡの内容は確定前なので発表していないが、各学科の案はクイズ形式やゲーム性があるものなど、割と楽しい内容になっている。また、在校生の先輩と知り合うと、入学時の不安を減らすことになると思うので、在校生との接点をつくる</p>

<p>取れるかどうか、ここで遊びながらやりましょうということなので、非常にいいプログラムだと思う。要望として、実際プログラムを体験した人たちに、どのように感じたかというアンケート調査をやりと改善点が見つかるかもしれないので、検討してみしてほしい。</p>	<p>という点にも力を入れたい。このプログラムは、いずれは全入学生を対象に実施し、入学後のオリエンテーションにつながっていくようなものになるように考えている。藤井委員のお話のアンケート調査はぜひやりたい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 入学前指導プログラムに関連して、学生が多かった時代は、一つの学科の入学生を入学式前に伊豆あたりの施設に2泊3日で連れて行って、体験させるということをやっていた学校もある。そういう形も考えてもよいのかと思った。</p> <p><input type="checkbox"/> 入る前のガイダンスについてだが、この時点で入学が決定すると高校生はバイトに勤しんで、ただだらしとした生活を送ることが多いので、新しく学ぶところで、いろいろなものを吸収していくのは親としては非常にありがたい。AOに限らずいろいろな生徒にそういう機会を与えてもらいたい。</p> <p>入学式に行くときも、事前に twitter などやりとりをして、待ち合わせをすることもできるので、友達を作る機会が入学前があるとよいと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> スクーリングには大変期待が大きい。いろいろな要素で効果があるので、全ての学科で実施できるとよいと思う。さらに内容を深めていただきたい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 看護科など、国家試験を目指す学科は入学前から少し意識してもらうことも必要であり、医療事務系は将来をしっかり描けていない人もいるので、現場見学などの機会も設けていきたい。学校の中で居場所があれば続けられるという人もいることから、友達づくりにつながる働きかけを入学前から意図的に行っていきたいと思う。</p>

③教育研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 兼任講師で授業公開をされた方の感想を聞いていたら教えてほしい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 授業の公開は当たり前であり、いつでも、誰が見ても恥ずかしくないレベルでやるべきであるという言葉が印象に残っている。なかなか外の先生の授業を拝見させていただく機会がないので、兼任の先生の授業の参観者数は非常に多かった。</p>

①TPCの育成強化

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 校長先生が今年強調している TPC の育成と評価の①学生が学ぶことの楽しさを実感し、自主的に学びを深めるきっかけとなる授業を工夫することは大変難しいことだと思う。目標面接など、あらゆる機会を通じて具体的な事例を話し合っていくなど、働きかけをもう一段階強めてほしい。</p>	<p><input type="checkbox"/> この重点目標自体、一朝一夕でできることではない。そのために外部研修などでサポートして、一歩でも半歩でもとにかく進めるようにやっていきたい。</p>

6. 平成 29 年度学校関係者評価報告案について

○最初に事務局高橋より、資料 4 に基づき平成 29 年度学校関係者評価報告案について以下の説明が行われた。

・資料 4 の左側には本日ご検討いただく基となる以下の資料の要点を記述してある。

①平成 28 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）

②平成 28 年度重点目標達成の自己評価

・右側「学校関係者会議の評価、意見」は平成 28 年度第 3 回委員会と今年度第 1 回委員会でいただいたご意見を議事録からまとめたもので、アンダーライン部分が提案と意見をいただいたところ、アンダーラインがないところは特にご意見がなかったところで、学校の報告をそのまま受けた記述になっている。

・職業実践専門課程の認定校は文科省のガイドラインに示す全項目について、学校関係者評価委員会の評価を受けなければならないことから、全項目について左側の報告に対して右側の評価、意見を記述してある。

○保坂委員長より、学外公表する報告書の内容を資料 4 の右側「学校関係者評価委員会の評価、意見及び提案」に記述してある。今回はこの記述に対して追加、訂正の意見を頂戴して報告書の最終まとめを行いたいとの説明の後、審議が行われた。

○委員からの意見は次のとおり。

（重点目標）

・2-40 という言葉は、2 年間の学びで 40 年活躍という意味合いだが、定年も伸びてくるし、4 年の修業年限の学科もあるので、変えたほうがいいのか。

・この名称自体がすぐわなくなってきた面はある。言わんとすることの内容を維持しつつ、適当な言い方があればご提案いただけたらありがたい。

・キャリアサポートセンターで中途退職した卒業生の面倒を見ているし、卒業生の支援講座も行っているのでも、卒業後は長く面倒をみるというような内容にしてはどうか。

・この委員会からの評価報告書は外部に向けて出すものでもあるので、名称そのものよりも、2-40 プロジェクトの中身をもっと説明したほうがよいのではないか。

・退学防止の 3 行目、「情報の共有を進めるとともに個別対応に様々な努力を重ねているが、防ぎきれないケースも多い」となっているが、「防ぎきれないケースも多いが、情報の共有を進めるとともに個別対応に様々な努力を重ねている」のほうがよいと思う。

（項目別点検・評価）

1. 教育理念、目的、育成人材像

・保坂：コンセプトブックについての説明が欲しい。

2. 学校運営 修正意見なし

3. 教育活動 修正意見なし

4. 学習成果

・就職率のところ、就職先の確保・開拓に務めてほしいの「務」は「努」に訂正。

5. 学生支援

・2 行目の 1 字「を」が欠落している。「活動支援を行っている」にする。

6. 教育環境 修正意見なし

7. 学生の募集と受け入れ

- ・ 9 ページの左側の下から 2 行目。学が二つ並んでいる。

8. 財務 修正意見なし

9. 法令などの遵守

- ・ 中ほど右側の網掛け部分で、外部に相談受付とあるが、例として何か載せておいたほうがわかりやすい。ただ外部だけだと、警察かなとか相撲協会かなと思う。
- ・ 弁護士事務所になる。(橋本校長)
- ・ 外部ではなく、何か適切な表現ということで、どう書くかは預からせてほしい。

10. 社会貢献・地域貢献 修正意見なし

○保坂委員長より、以上で報告書の審議を終了した。本日も指摘をいただいた部分は文言を修正し、それをもって最終的な報告書を作成し、年内に校長に提出する予定。修正した報告書は提出前に事務局から委員の皆様にお送りするが、最終確認は委員長に一任してほしい旨の発言があり、確認、了承された。

○事務局高橋より、委員長に確認いただき、12月10日を目標に最終案をお送りする予定と説明が行われた。

○最後に、保坂委員長の指名順に各委員から総評が行われた。

- ・ 保護者の立場から、学生のことをよく知ろうと学校が様々な努力をしているところは非常にありがたいと思っている。このことは是非継続してほしい。
- ・ 高校の三者面談で子供が医療事務の専門学校に進みたいと話したときに、子供が仕事の内容を説明してもなかなか理解してもらえず、高校の先生には医療事務の仕事への認識があまりないのではと感じたことがある。仕事内容をもう少しアピールしてほしいと感じている。
- ・ 本校には様々な学科があるが、看護科のように学科名だけで何を勉強するかが分かるわかる学科もあれば、医療マネジメント科のようにどのような勉強をするのかをきちんと説明しないと分かりにくい学科もあると思うので、高校の先生や保護者に向けた情報提供にもっと工夫があっても良いのではないかと感じている。
- ・ 退学防止をはじめ、授業改善に向けた教員研修などの課題解決によく取り組んでおり、着実に成果が上がっている。特に退学は、今年は重点目標を達成できるかもしれないという状況にあり、そういう点で、非常に成果が上がっていると感じている。
- ・ 今後の課題としては、兼任講師の方が多いので学校の運営方針、計画などを兼任講師の方にしっかりと浸透させること、また常勤教員との情報交換を密にしていくことについて、今まで以上に具体的な努力が求められるのではないかと思う。
- ・ 入学前の学力と入学後の意欲や努力と相関関係について調査結果の説明を受けたが、この課題の解決に向けた活動にも、兼任講師を巻き込んだ取組が求められると思う。
- ・ 委員会の立ち位置が微妙と感じている。学校の自己評価の結果が報告書に書かれ、そこに委員会の意見があって、それを実際に現場で反映できているかの点検結果を確認して、評価するのが委員会の基本的な流れになっているが、せっかく学校の関係者が集まっているので、少し外れた意見も吸収してもらい、現場に反映してほしいと思っている。
- ・ 時間の問題もあってなかなか難しいとは思いますが、学校からの報告、説明に対する評価だけでなく、委

員からの意見、提案に基づく意見交換を行う時間をもっとあればよいと思っている。

- ・目的には退学予防があるが、入学前から学生とのかかわり合いを作る取組は評価できると思う。
- ・入学してからは、求められる人材像の変化に対応するカリキュラムを創意工夫することが大事だと思っている。例えば医療事務分野においては、がん登録について授業を新たに始めると聞いており、変化に十分に対応していると思う。
- ・病院関係者の方たちからは即戦力には既卒とよく言われるが、新卒でもきちんと学校で教育することで即戦力になることは可能と考えている。本校では即戦力として役立てる新卒者を育てているという自負が大事だと考えている。
- ・卒業後は長く同じ所で頑張っている方もいるが、転職者も多い。働き方改革等もあって、キャリアアップを目指した転職への支援もキャリアサポートで行っていることを聞いているが、そのことを知らない卒業生も多いと思うので、そういった情報も提供して、何かあったら学校に相談できるという受け皿を広げていただければと思う。
- ・本校は 18 歳以降に入学し、卒業後に社会に出ることを考えると、すぐに使うことのできる技術や知識も大事だが、長い目で見ると、ものごとを継続してやり抜く力や以前校長先生のお話にもあった、押さえられても元に戻ることでできる復元力といった人間力が大事だと思っている。
- ・企業に就職して働いた経験をもとに今は会社経営をしている立場からすると、そういう能力が必要不可欠という認識があり、それを身に付けるために、専門学校の 2 年間、3 年間という短い期間で何が提供できるかを考え続けてほしいと思う。
- ・それから、必要な知識と技術を身に付ける前提に、本人の勉強に対する動機づけ、それをやりたいという気持ちを持ち続けることがあると思うので、それを持続する仕組みの検討も続けてほしいと思う。
- ・委員会からの提言には真摯に取り組んでいただいていると感じている。今年は教務委員会を中心にさまざまな課題を確実に改善に結びつける努力をしており、すばらしいことと思う。
- ・校長先生のご挨拶にあった専門職大学、専門職短期大学という新しい学校が平成 31 年に開設されるが、それによってどのような影響があり、本校はどう考えていくのかなどについてもそろそろ考えたほうが良いのではと感じた。

以上